

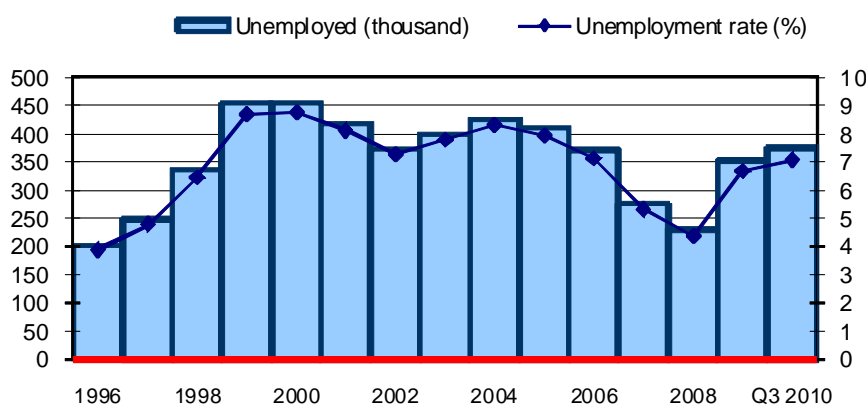
7. 労働事情

労働市場

チェコ統計局の2010年第3四半期の予備データによると、就業率は前年比の低下において大幅な緩和が見られ、近年では全体として上昇することとなった。2009年第3四半期に比較すると、2010年同時期の総就業数が10,100人少なかった。また、2010年第3四半期の平均失業者数（季節の影響を除いた数字）は前四半期に比べて10,600人減少した。失業者数の停滞からすると、労働市場の状況が徐々に回復していくことがわかる。

出所：「EUにおける就業状態及び社会的な見通し」、ユーロスタット、2010年12月

チェコ共和国の失業者数と失業率



出所：2011年 チェコ統計局

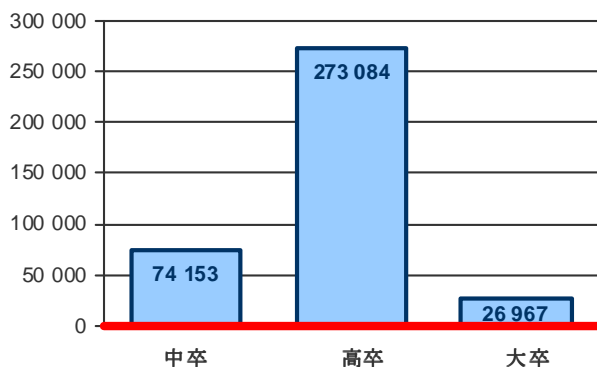
1997年を契機に、チェコの失業率は著しく増加している（下記グラフ参照）。しかしながら、2004年以降僅かながらではあるが減少の兆しが見えており、これはある意味でチェコ経済のダイナミックな成長にリンクしたものと言える。また、チェコの労働市場の特徴として、顕著な地域格差があげられる。

特に北部地域および東部地域と中央ボヘミアあるいは首都プラハを比較すると格差は明らかである。

また、労働市場の発展には、各産業セクターが担う役割も大きく、近年、光学器械、ゴム・木材加工業と共に、電気工学部門が大きな盛り上がりを見せている。自動車産業も目覚ましい成長を遂げており、シュコダの各工場（ムラダボレスラフ、ヴルフラビ、クヴァシニ）やTPCA（コリーン）およびノソヴィツェにあらたに建設された現代の工場に代表される数多くの投資企業を見ることができる。サービス産業もまた上昇傾向にある。一方、皮革、繊維、衣料の分野はかなり落ち込んでいる。

出所：EC 労働市場情報 2008年版

チェコ共和国の失業者数- 最終学歴別 (Q3 2010)



出所：2011年 チェコ統計局

チェコ共和国の州別失業率 (Q3 2010)

州	%
Prague	3.7
Central Bohemia	4.7
South Bohemia	4.8
Plzen	5.7
Karlovy Vary	11.5
Usti	11.1
Liberec	6.6
Hradec Kralove	6.6
Pardubice	6.5
Vysocina	6.5
South Moravia	7.5
Olomouc	9.4
Moravia-Silesia	8.8
Zlin	9.9

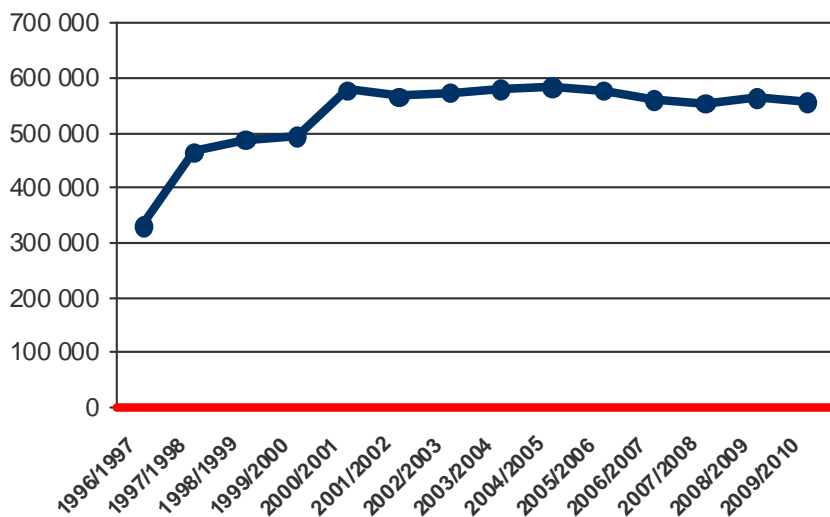
出所：2011年 チェコ統計局

ファクトシート・ナンバー7 - 労働事情

高度な技術を持った労働力

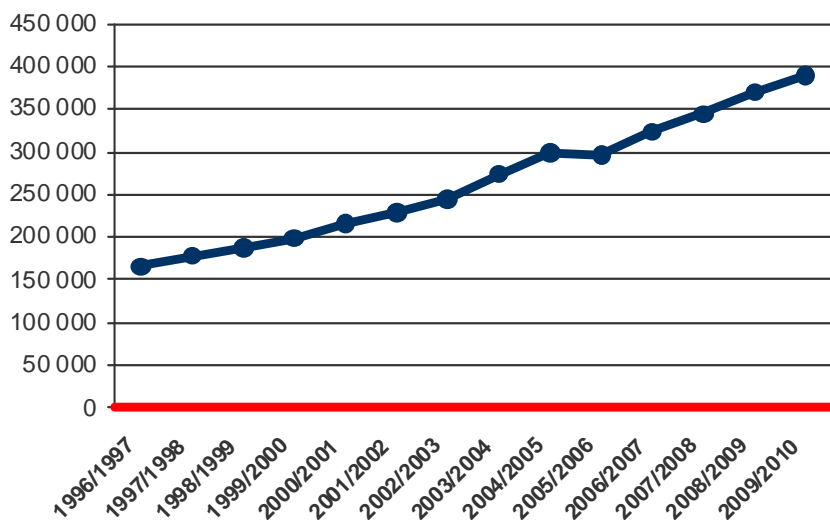
投資家にとってチェコの最大の魅力は、西欧諸国の数分の一のコストで、熟練した教育水準の高い労働力が確保できることである。OECD の調査によれば、チェコは理工系学生の比率が最も高い国の 1 つである。(詳細は、後述の「技術教育」の項を参照)。教育制度の改革のみならず外国企業の潜在的被雇用者である 18~26 歳人口の急増などの要因で、大学在学者数は、1990/91 年度の 11 万 8,000 名から、2009/2010 年度には 38 万 9,231 名に増えた。

高校生数



出所:2010年 教育情報研究所

大学生



出所:2010年 教育情報研究所

外国人労働者

チェコの国家安全保障委員会の最新の発表によると、426,749 人以上の外国人が合法的にチェコに移住し就業した (2010 年 5 月 31 日現在)。スロバキア人、ウクライナ人、ベトナム人、ポーランド人とロシア人が最も多い。ビザ及び労働許可の詳細について「チェコへの入国、滞在及び就労」ファクトシートをご覧ください。